

# 平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園児童デイサービス事業			会計	款	項目	大手	小事
				01	03	02	07	02 60
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	児童発達支援センター				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	長谷川 聖二				

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね2歳から就学前の児童で、成長・発達の心配のある児童と保護者	意図	成長・発達に心配がある幼児・児童及びその保護者に対する支援をとおして、幼児・児童の運動、ことば、社会性・対人性など、全体発達を促すと共に保護者の不安を和らげる。
事業内容	発達に遅れや心配ある幼児・児童に対して、日常生活における基本的動作の習得及び集団生活に適應できるように、児童の身体並びに生活環境に応じた通園日数の中で、効果的な支援・訓練を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成23年10月1日に開所する。24年度からは、3歳未満の利用児童においては1年間の親子通園を行っている。3日（月火水）支援クラスが2クラス、2日（木金）支援クラスが2クラス在り、児童数は増加傾向にある。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	① 延べ利用日数	1,933	2,417	2,561	人	→→	
	②						
	③						
	④						
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト		平成25年度	平成26年度	平成27年度	児童デイは3日支援・2日支援が各2クラスずつあり、1クラスは親子通園のクラスとなっている。幼稚園や保育所等と並行通園している児童が多く、幼稚園・保育所の行事等を優先するため欠席をすることがあるため、年間をとおして月平均75%程度の利用率になっている。しかし、児童の発達を促すという目的は課していると言える。		
事務事業の総コスト(a=b+c)		30,059,674	31,174,375	37,918,099			
事業費(b)(円)		8,203,674	12,308,375	11,964,099			
うち一般財源							
職員給与費(c)(円)		21,856,000	18,866,000	25,954,000			
人役・職員(人)		2.00	2.00	3.00			
人役・再任用(人)		2.00					
人役・臨職(人)			3.00	2.00			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	利用形態に伴った児童デイ独自の行事作り、支援の充実を図る。つばさ学園とのバス利用の検証を行う。並行通園をしている児童の幼稚園・保育所と連携を図り、児童の支援につなげる。	③取組の課題	児童の発達支援・利用形態に合わせた行事・支援内容や行事を継続して検討し、支援内容の充実を図る。児童の発達支援（療育）について保護者の理解が得られるよう更に努めていく。
②今年度(H27)に実施した取組	児童デイ独自の行事（親子遊び等）について、指導会議を通じて調整を行った。並行通園をしている児童の幼稚園等と連絡をとって支援につなげた。	④今後の改善計画	日数支援・利用形態に合わせた支援内容や行事の在り方について検討する。職員の質の向上に努めると共に職員体制を検討していく。